

研修期間中に独立経営方式へ移行することで経営者マインドを醸成

公益財団法人 志布志市農業公社（鹿児島県）

【トレーニングファームの概要】

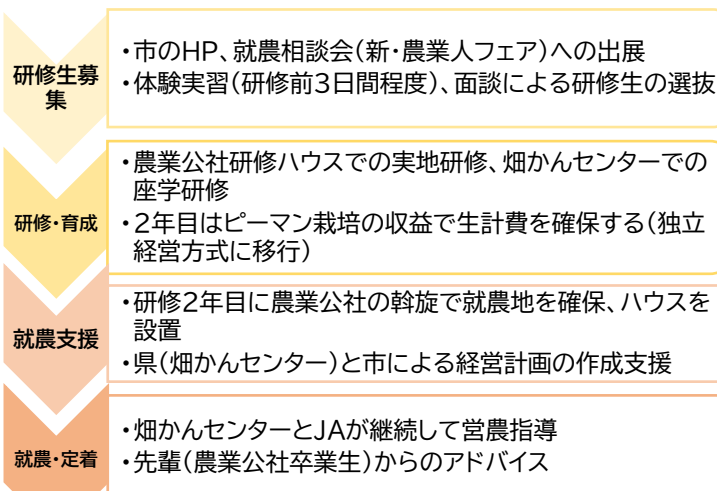
- 所在地：鹿児島県志布志市
- 研修品目：ピーマン
- 研修人数：3組6名
- 研修要件：概ね45歳未満、志布志市内に移住し就農できる者
自己資金（半年間の生活費程度）を保有する者等
- 研修内容：農業公社研修ハウスでの実地栽培、座学
- 研修場所：実地栽培…公社研修ハウス
座学…曾於畑地かんがい農業推進センター
- 取組の背景：農畜産物の輸入自由化、価格低迷、後継者不足などにより、基幹産業の農業が衰退に陥ったことから、平成8年に行政とJAが連携して志布志町農業公社を立ち上げ、ピーマンを対象品目として新規就農者の育成を開始。平成19年の市町村合併に伴い、志布志市農業公社を設立し、平成24年に公益財団法人志布志市農業公社に名称変更した。



研修施設（松山黒石農場）

新規就農までの流れ

サポート体制



農業公社	・実地研修の受入・実施 ・農地の斡旋
県（曾於畑地かんがい農業推進センター）	・座学研修（農業基礎、簿記） ・就農計画作成支援 ・技術、営農指導
市	・就農計画作成支援 ・補助事業申請の支援
JA（部会含む）	・技術、営農指導 ・カウンセリング、栽培講習会の開催 ・部会員からのアドバイス



研修の様子



トレーニングファームでの研修

研修期間（2年間：7月～6月）

1年目

2年目

■農業公社の研修ハウスにて実地研修

- ・月15万（夫婦では25万）の支給を受けながら栽培技術等（土づくり～片付けまで）を学ぶ。
- ・畑かんセンターやJAで、農業基礎、簿記、栽培に係る管理指導等の座学研修を実施。

■独立経営方式に移行

- ・研修生は1年目の研修を踏まえ、自ら生産したものを出荷して得る収益で生計費を確保。
- ・2年目からの研修を独立経営方式に移行したことで研修生の経営者マインドの醸成につながっている。

- ・研修2年目に、就農準備として農業公社の斡旋を受けて就農地を確保できることが、研修生には大きなメリットとなる。
- ・ハウスの設置費用は、補助事業を活用し初期投資を抑制している。
- ・販路には、ほぼ100%JA出荷で、経営の早期安定を図ることが可能。

成果・実績

- ・研修事業を開始した平成8年～令和3年度において、研修生136人（地元以外81人）のうち94人が就農中。（8名は研修中）
- ・ピーマン部会員は、平成8年農業公社設立時の35人から令和6年には100人（農業公社卒業生約7割）と大幅に増加し、平均年齢も若返っている。



研修生の皆さん